

あとがき

〈編集顧問〉

太田 保世
諏訪 邦夫
広沢 弘七郎
堀江 孝至
村山 正博

〈編集委員〉

相澤 久道
石坂 彰敏
和泉 徹
小川 聡
永井 良三
三嶋 理晃

〈編集協力委員〉

赤石 誠
赤柴 恒人
北風 政史
近藤 哲理
中沢 潔
(五十音順)

もう25年以上前になってしまうが、小生が研修医の頃の人工呼吸器は極めてシンプルな構造で、モニターできる指標は少なかったが、その割には大きな図体の代物であった。人工呼吸器が装着される患者さんが出現すると、病棟は大騒ぎとなったものである。私の恩師の川城丈夫先生からは“人工呼吸器が装着された患者さんの受持医は装着期間中帰宅禁止”と言われたもので、小生も36日間連続で病院に泊まり込んだ記憶がある。

話は変わるが、その頃は動脈血ガス分析をILメーターで行っていたが、1回の測定に約30分程度かかり、測定が終了した頃にまた次の動脈血検体が運ばれてくるというようなありさまだった。患者さんの容態が刻々と変わっているような際には、朝までILメーターとにらめっこしていたものである。

近年の人工呼吸管理に関する進歩はめざましく、最近の特筆すべき事柄としては、2000年にARDS networkが報告した多施設臨床研究の結果であろう。すなわち、ARDS症例において低1回換気量(6 ml/kg)での人工呼吸が、conventionalな1回換気量(12 ml/kg)での人工呼吸よりも患者さんの生存率を有意に改善したというものである。本号では、特集として「人工呼吸管理をめぐって」を企画した。最近のトピックスをかなり網羅的に取り上げた。まずマスクを用いて換気補助を行う“非侵襲的陽圧換気療法(noninvasive positive pressure ventilation; NIPPV)の適応、効果などについて急性呼吸不全、慢性呼吸不全に分けて、それぞれ公立陶生病院の近藤先生、京都大学の陳先生に解説頂いた。次に、人工呼吸によって惹起される肺損傷とそれに対する肺保護的人工呼吸管理について東京女子医大の小谷先生に解説頂いた。肺保護的人工呼吸療法の集大成とも言える高頻度振動換気(high frequency oscillatory ventilation; HFOV)については第一人者である兵庫医科大学の丸川先生に解説頂いた。最後に、人工呼吸管理合併症としての人工呼吸関連肺炎(ventilator-associated pneumonia; VAP)を慶應大学の小竹先生に解説頂いた。執筆者の先生方はそれぞれその方面の第一人者だけあり、大変面白い内容の解説で非常に勉強になった。人工呼吸管理の今後のますますの発展を望んでやまない。

最後に、前号(9号)のBedside Teaching欄に「急性心不全ガイドラインについて」をご執筆いただきました矢尾板裕幸先生が、去る5月20日、交通事故に遭い急逝されました。ここに編集委員会として謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(石坂彰敏)

呼吸と循環 (第55巻 第10号)

2007年10月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,730 円(本体 2,600 円+税 5%)

(2007年、年ぎめ予約購読料 31,800 円)
(税込み、配送料弊社負担)

E-mail: kotojun@igaku-shoin.co.jp

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/kotojun>

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5703

(担当: 菊池・山崎)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 三美印刷株式会社 電話 (03) 3803-3131

広告申込所 (株) 医薬広告社 電話 (03) 3814-1971

・Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2007, Printed in Japan.

・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

IGS (株) 日本著作出版権管理システム委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。